

■研究推進委員会 活動計画書

提出日：2024 年 11 月 30 日

名 称	生態工学 研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：大澤啓志（日本大学）
幹 事	氏名（所属）：徳江義宏（鹿島建設（株）） 連絡先 e-mail アドレス：tokue@kajima.com
その他 構成員	氏名（所属）： 板垣範彦（いきものランドスケープ）、井上剛（（株）エスアイエイ環境事務所）、裏戸秀幸（横浜市）、勝野武彦（日本大学 名誉教授）、亀山章（東京農工大学 名誉教授）、倉本宣（明治大学）、黒田貴綱（日本大学）、園田陽一（国際産業技術専門学校）、趙賢一（（株）愛植物設計事務所）、中村忠昌（東京いきものラボ）、春田章博（春田環境計画事務所）、日置佳之（鳥取大学 名誉教授）、宮本渉、森本幸裕（京都大学 名誉教授）、養父志乃夫（和歌山大学）、八色宏昌（景域計画（株））、渡邊敬太（大成建設（株））
目 的	生態工学の技術の体系化と普及活動
活動計画 及び 想定される 成果 (1 年目)	1. 活動計画 (1)2025 年度日本造園学会全国大会ミニフォーラムの企画・運営 造園学会100周年記念に関連して、過去の造園分野における生態工学に関わる取り組みについて議論することを予定している。 (2)「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 昨年度に引き続き月に1回の研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」(年4回)および「用語解説」の企画立案、編集作業を継続的に実施する。 (3)生物多様性技術指針の出版 公園緑地の工事工種体系の工事種別に基づいた生態工学のクリティカルな技術や技術要素を抽出した「生物多様性技術指針」を出版する。 2. 想定される成果 「生物多様性技術指針」を出版し、生物多様性にかかわる技術が広く現場へ普及する。また、学会誌を通じて生態工学に関わる技術的事例および最新の関連用語に関する情報提供を学会員に対して行い、あわせて、出版活動を通じて、生態工学に関わる学術と技術の体系化および普及を図ることが期待される。
(2 年目)	1. 活動計画 (1) 2026 年度日本造園学会全国大会ミニフォーラムの企画・運営 2025 年には「生物多様性技術指針」の出版を予定している。ミニフォーラムでは出版した「生物多様性技術指針」の現場での活用普及、また生物多様性国家戦略などの関係する取り組みにおける活用などを議論する。 (2) 「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 昨年度に引き続き月に1回の研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」(年4回)および「用語解説」の企画立案、編集作業を継続的に実施する。 2. 想定される成果 「生物多様性技術」に関して、生態工学的アプローチにより研究を進めることで、ランドスケープ分野における生物多様性の技術体系の構築および実務分野における技術的活用が期待される。また、生態工学に関わる技術的事例および最新の関連用語に関する情報提供を学会員に対して行うことを通じて、生態工学に関わる学術と技術の体系化および普及が図られることが期待される。